2026年度豊岡市地域づくり懇談会

地域が変わると，暮らしが変わる

～持続可能な地域づくりの実現に向けて～

作野広和

島根大学教育学部教授

豊岡市地域コミュニティアドバイザー



必要があればお声がけ下さい！

全国の地域にアドバイスや協働活動（伴走型支援）を展開しております。

自治体単位，地区単位，集落単位の地域づくりのお手伝いをしております。

単発の講演会・研修会のご依頼も遠慮なくご相談下さい。

メール：hsakuno@edu.shimane-u.ac.jp

電　話：0852-32-6107／090-2006-9162

作野広和　研究・活動

■県レベルの中山間地域振興

・奈良県（翠山大学設立準備）
・兵庫県（地域再生アドバイザー）
・広島県（中山間地域集落のあり方）

★　共同研究
★★　科研

■市町村レベルの中山間地域振興（１共同研究）

・島根県益田市（20地区）　中山間地域振興計画の策定
・鳥取県南部町（７地区）　地域のあり方検討
・広島県神石高原町（４地区）★　地域のあり方検討

■地域コミュニティの再構築（４共同研究）

・兵庫県豊岡市（29地区，地域コミュニティアドバイザー）★
・兵庫県佐用町（13地区，地域づくりアドバイザー）「さよラボ」★
・広島県広島市（140地区，広島型地域運営組織ひろしまLMO）
・島根県出雲市佐田町（２地区）・・・・「さだラボ」
・島根県飯南町（５地区，地域づくりアドバイザー）「飯南ラボ」★
・島根県邑南町（12地区，顧問）・・・・・「邑南ラボ」★

■持続可能な地域づくりの推進

・島根県大田市（馬路地区）
・島根県江津市・・・「松平ラボ」
・島根県奥出雲町（たたら文化的景観）・・・「奥出雲ラボ」

■高校魅力化（４校）

・島根県立矢上高校（地域との協働事業）
・島根県立飯南高校（「生命地域学」の継続）
・鳥取県立米子西高校（みらいチャレンジの継続）
・鳥取県立日野高校（魅力向上）

■高校持続・公設塾

・中国地方・島根県における高校の持続・公設塾に関する研究

■公営塾・教育再生・人づくり（３地域）

・鳥取県日野郡まなびの推進局（日野町・日南町・江府町）
・保・小・中一貫教育プログラム「日南学」の推進（日南町）
・「人づくり」と「地域づくり」の一体的取り組み（益田市）

■学校配置・あり方・再編（６市町）

・鳥取県伯耆町（２中学校・４小学校）
・島根県安来市（５中学校・17小学校）答申済
・島根県飯南町（２中学校・４小学校）答申済
・島根県川本町（１中学校・１小学校）答申済
・島根県邑南町（３中学校・８小学校）
・広島県庄原市高野町（１中学校・１小学校）

■学校経営（２校園）

・教育学部附属学校部長（附属幼稚園，附属義務教育学校）

豊岡市における取り組み

■1年目　2011（平成23）年度　但東町資母・合橋・高橋地区への関わり（一部過疎）
■2年目　2012（平成24）年度　但東町資母・合橋・高橋地区への関わり（一部過疎）
■3年目　2013（平成25）年度　新しい地域コミュニティのあり方検討委員会設置
■4年目　2014（平成26）年度　「新しい地域コミュニティのあり方方針」策定（モデル地区1年目）
■5年目　2015（平成27）年度　地域コミュニティ政策推進会議設置（モデル地区2年目）
■6年目　2016（平成28）年度　地域コミュニティ政策推進会議継続（モデル地区3年目）
■7年目　2017（平成29）年度　地域コミュニティ組織設立（全29地区）
■8年目　2018（平成30）年度　地域コミュニティビジョン策定委員会設置
■9年目　2019（令和１）年度　「地域コミュニティビジョン」策定
■10年目　2020（令和２）年度　地域づくり戦略会議設置・中間支援組織設立・地域づくり職員ネットワーク設置
■11年目　2021（令和３）年度　「支えあう地域のしくみを考えるアンケート調査」の実施
■12年目　2022（令和４）年度　「支えあう地域のしくみを考えるアンケート調査」報告会の実施
■13年目　2023（令和５）年度　「地域コミュニティチェックシート」試行
■14年目　2024（令和６）年度　全地区訪問（２巡目）
■15年目　2025（令和７）年度　共同研究　行政区に対する調査　■16年目　2026（令和８）年度





2025年度　豊岡市･島根大学共同研究

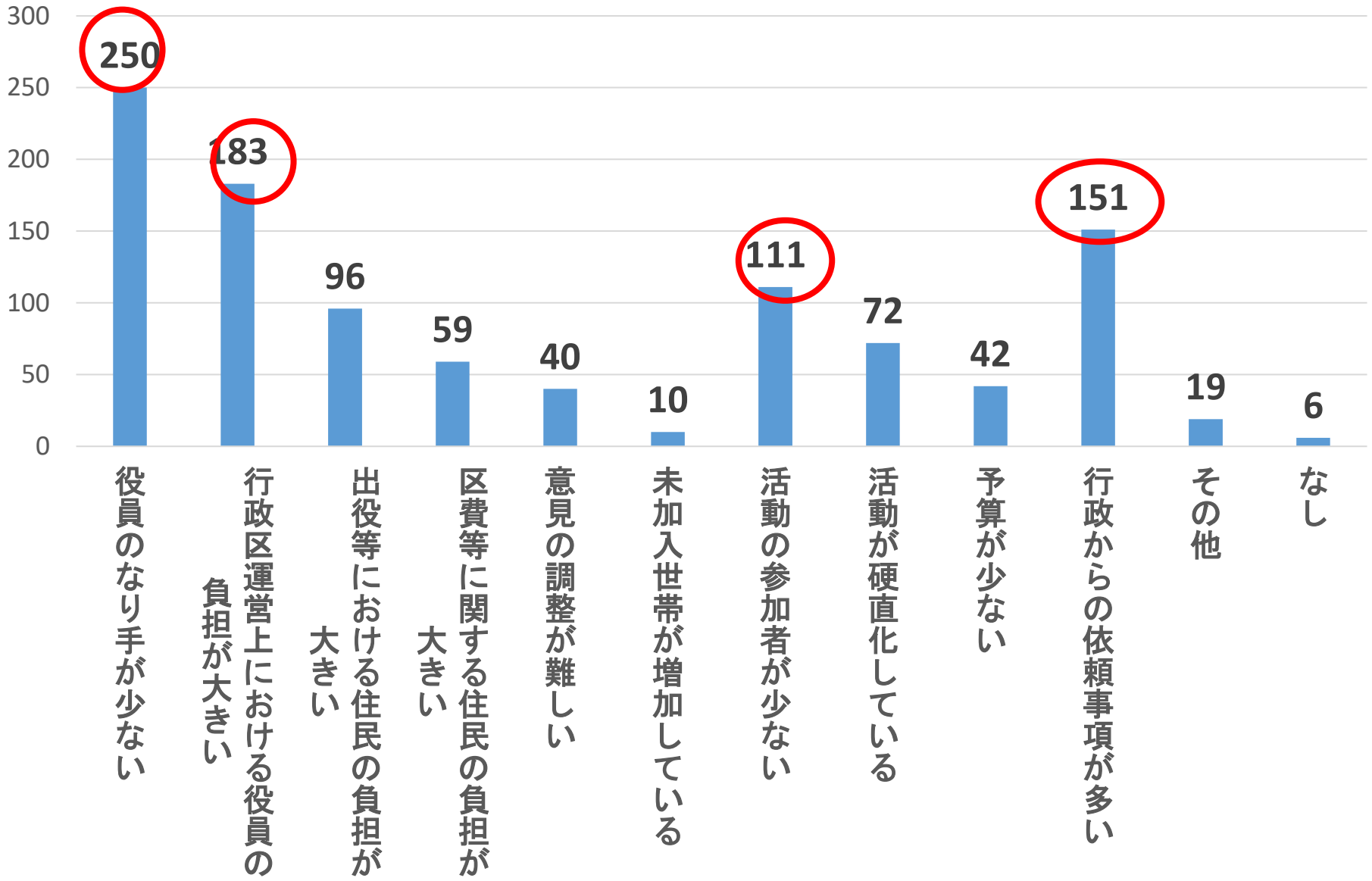
＜ヒアリング担当者＞
前田拓望
（当時：島根大学教育学部４年）

調査対象	期間	調査内容
全行政区調査	６月	・「行政区調査」の調査票を、各行政区の区長・町内会長に送付（359行政区） ・調査票を通じた区長会の運営状況，各区が有する課題，地域コミュニティ組織との関係　等の実態把握
事例地区調査	８～９月	・３地区（五荘地区，小坂地区，資母地区）の全区長に対するヒアリング調査による実態把握
事例集落調査	９月	・「世帯訪問ヒアリングシート」を用いた各世帯代表者に対するヒアリング調査 （資母地区の３行政区） ・それぞれヒアリングの際に受け取った資料をもとにした実態把握



Ⅱ　行政区の課題

行政区の課題について（複数回答）

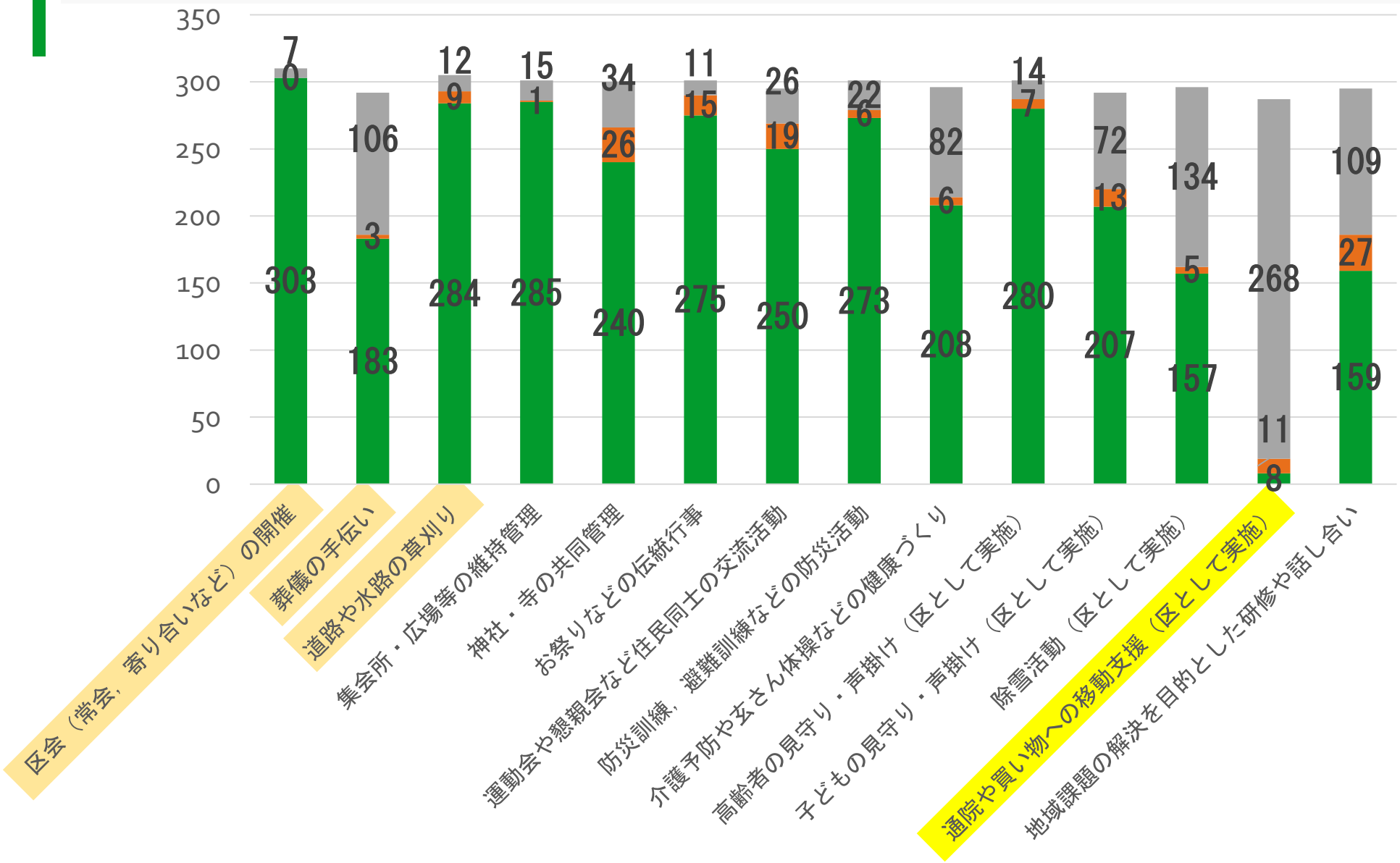


○行政からの依頼事項が多い等、役員の負担が大きいことがなり手が少ない要因につながっているように捉えられる。

○**活動の硬直化、マンネリ化**が参加者の減少につながっている可能性あり。

○少数ながら、**行政区における課題がない**と回答する行政区もあり。

行政区の活動内容について



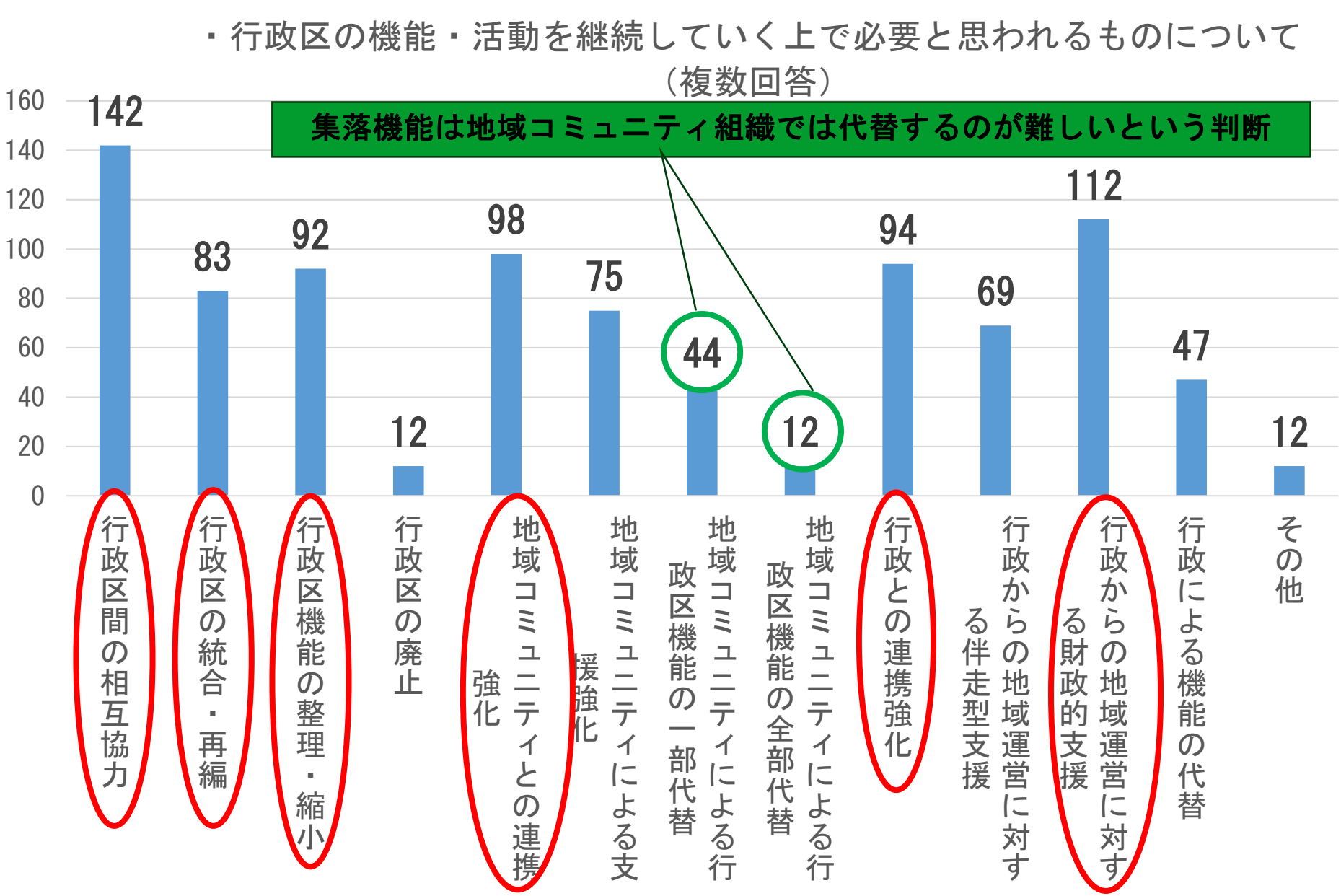
○基本的な集落機能を有している。

- 生産補完機能
- 資源管理機能
- 生活扶助機能

oほとんどの行政区で常会や寄り合いが定期的に開催されている。

○「通院や買い物への移動支援」を実施している行政区は少ない。

行政区の機能･活動を継続していく上で必要と思われるもの（複数回答）



○「行政区間の相互協力」が最も多い。「行政区機能の整理・縮小」や「行政区の統合・再編」についても注目できる。

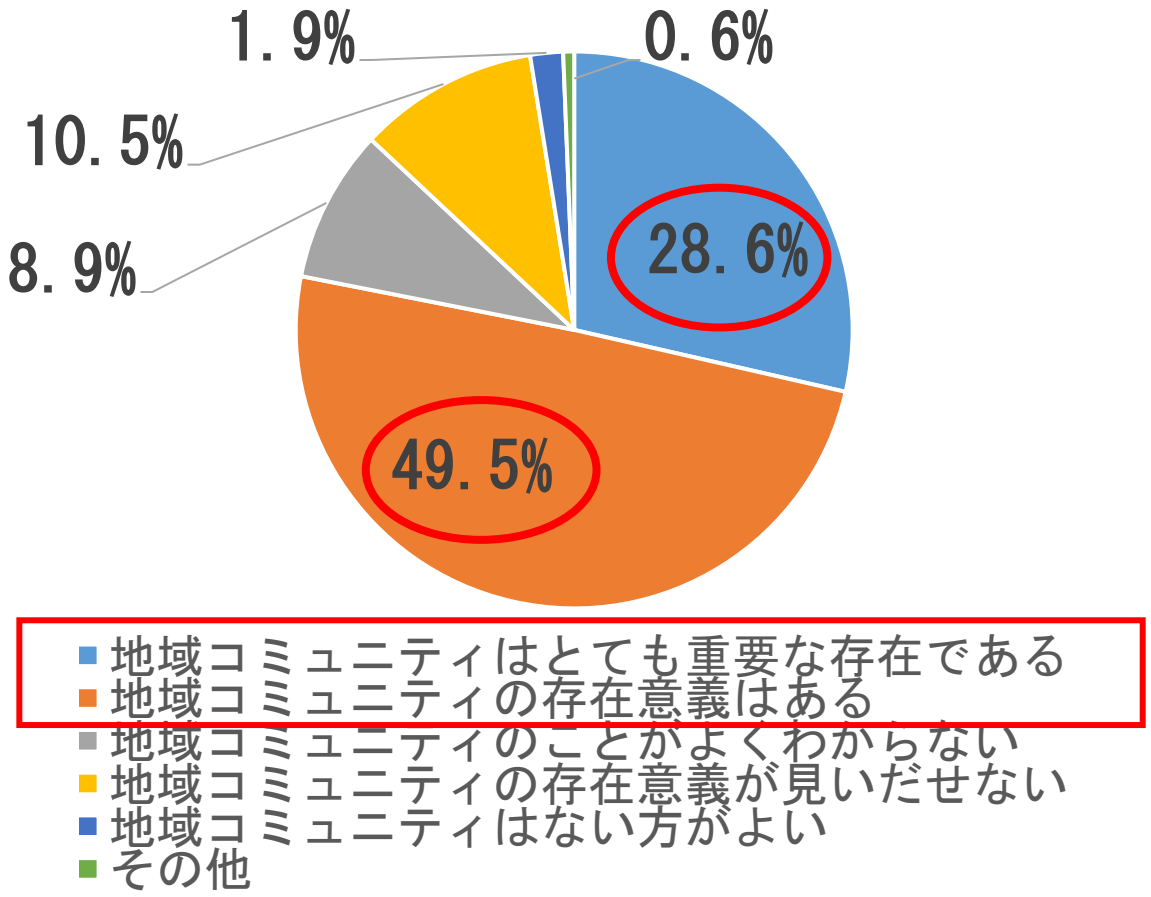
⇒**水平連携による課題解決**

○地域コミュニティ組織や行政との連携・支援強化も多く、単一行政区だけでは住民自治・課題解決は難しく、協力が必要であると感じる行政区が多い。

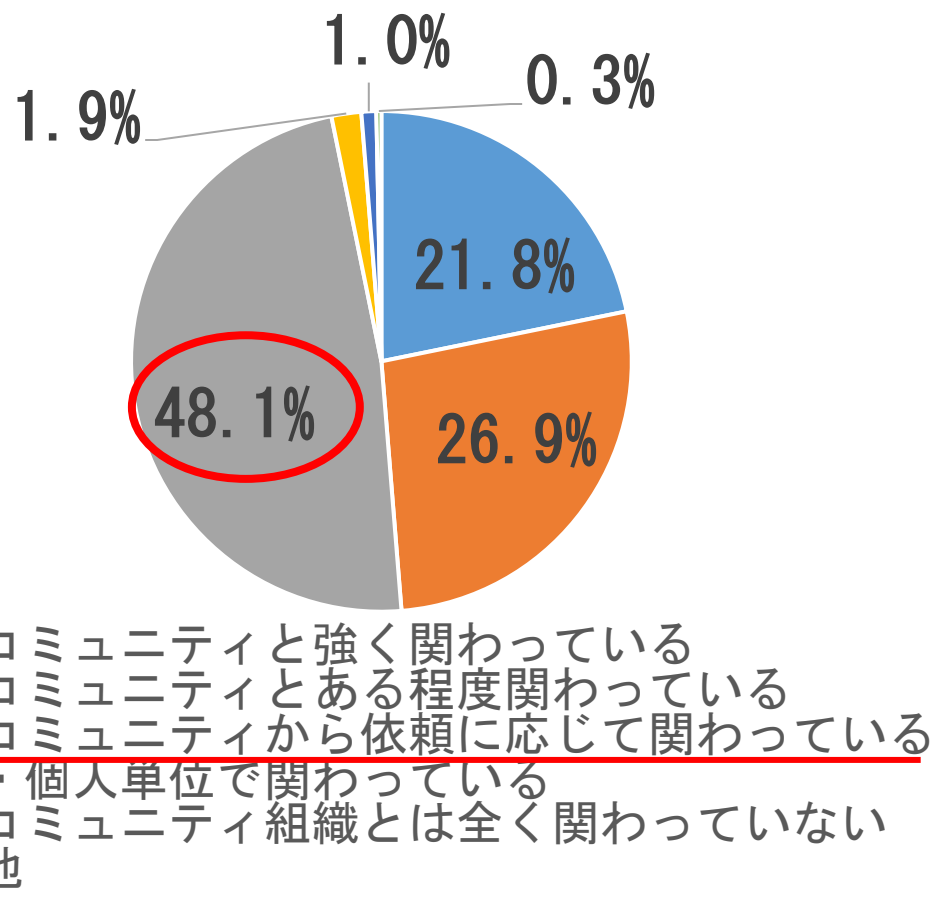
⇒**垂直連携による課題解決**

地域コミュニティ組織について　　行政区と地域コミュニティ組織との関係について

・地域コミュニティ組織について



・行政区と地域コミュニティ組織との関係



〇地域コミュニティ組織の存在をある程度認めつつも、より地縁的な行政区の方を重要視していると考えられる。

〇行政区から地域コミュニティ組織への関わりが少ない

⇒　行政区は地域コミュニティ組織との関わりについて受動的に対応

【比較マトリクス】なぜ今、システムが軋んでいるのか？

システム・エラーの根本原因

	昭和・平成の前提	令和の現実
働き方	定年退職・専業主婦	60-70代まで現役就労・共働き
世代と世帯	多世代同居・均質化	高齢独居・シングル・新住民
地域の繋がり	濃密な地縁・宗教的紐帯	個人の多様な価値観の尊重

過去の前提で作られたOS（地域の仕組み）のまま、
現代のアプリ（住民）を動かそうとしていることが最大の原因です。

（2026年８月「日高地区地域づくり懇談会」意見交換の結果をNotebookMLにより分析）

Gemini Notebook

変化を阻む最大の障壁は「前例踏襲」のジレンマ



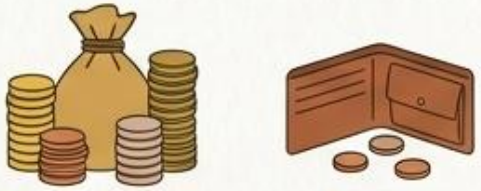
「例年どおりは簡単、変えるのは難しい」

— 住民D

Context



・大きな集落と小さな集落の混在



・予算が潤沢な集落と、予算がない集落の混在

規模も予算も異なる集落に対し、一律の「前例」を適用し続けることはもはや不可能です。物理的な人口減少以上に、精神的な「硬直化」が変革を阻んでいます。

Gemini Notebook

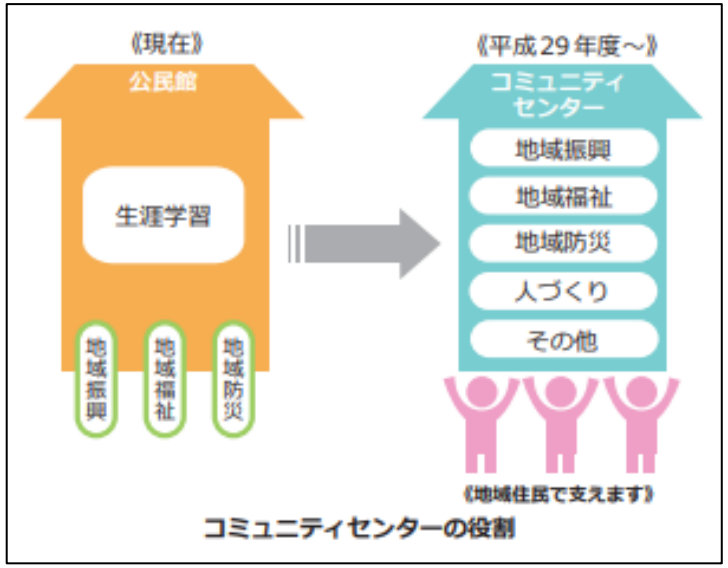
Ⅲ　豊岡市における地域づくり改革

第１段　地域コミュニティ組織（地域運営組織）による行政区の補完

「新しい地域コミュニティのあり方方針」

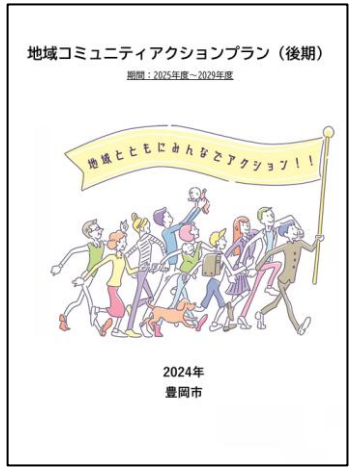


地域コミュニティ組織・コミュニティセンター設立（2017年）



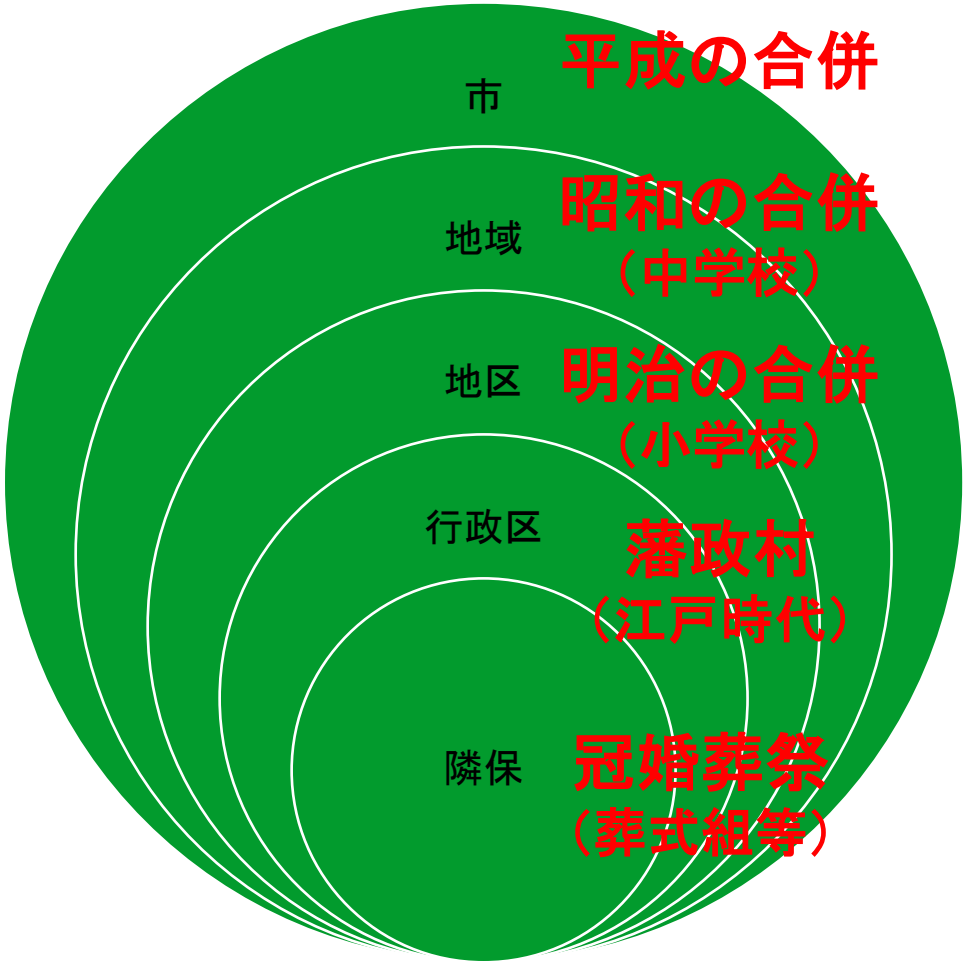
「地域コミュニティビジョン」（2020年）

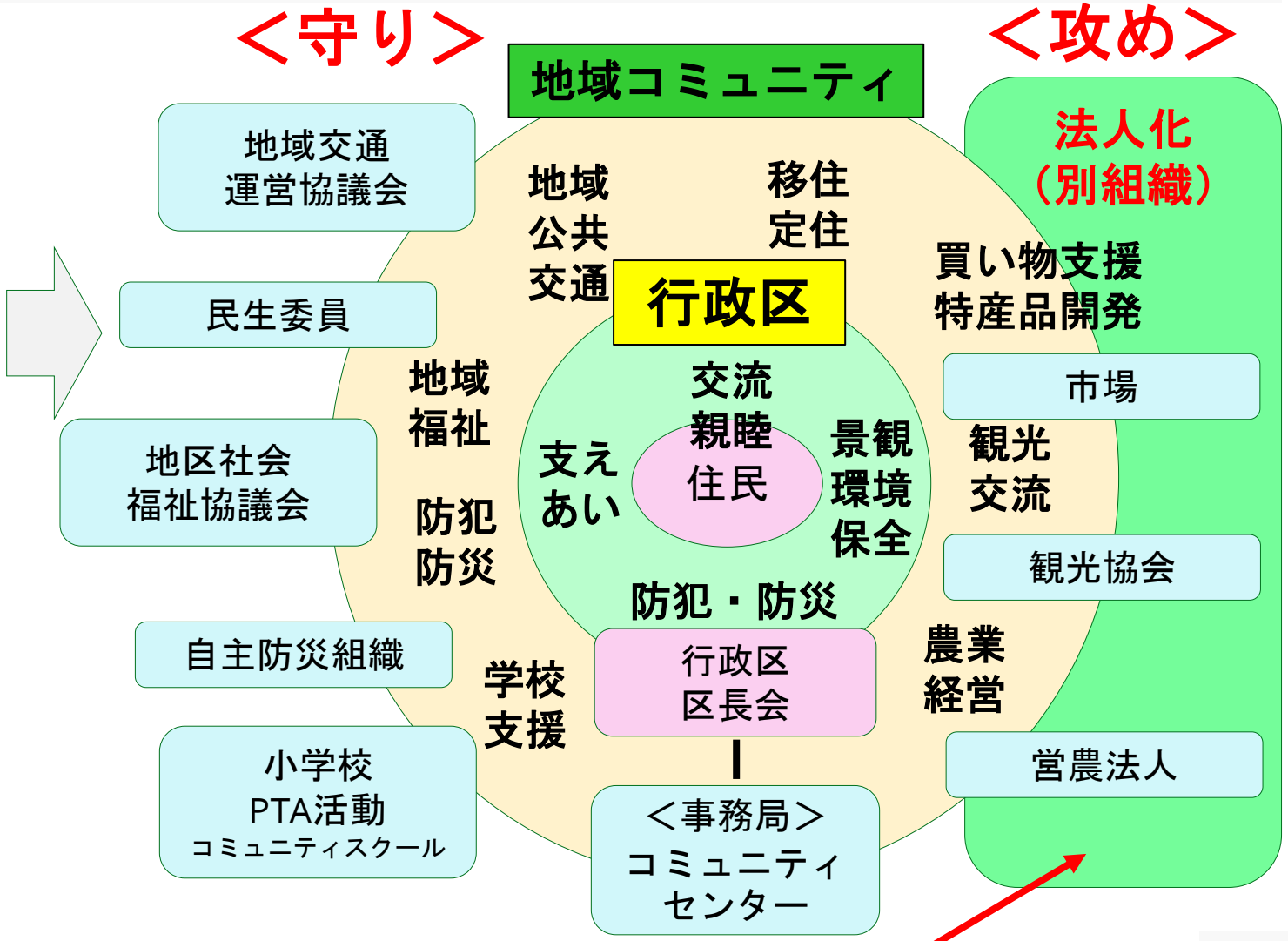




行政区を補完する地域コミュニティ（地域運営組織）　ネットワーク型自治組織

地縁型自治組織





住民合意の外出し「実行組織」（法人）
を設置することもできる

作野広和によるアドバイザーとしてのアイディア

第２段　行政区のあり方改革×地域コミュニティ組織の再定義

(1)地域政策改革：市役所・振興局

- 行政からの依頼実行の徹底的な見直し
- 住民に近い地域振興局の機能強化
- 中間支援組織による伴走型支援の強化

(2)地域コミュニティ改革：地域コミュニティ組織

- 地域コミュニティ組織のミッションの再定義
- 地域コミュニティ組織における主体の変革
- 移住定住・空き家対策・子育て支援・伝統行事等，固有の役割継続

(3)行政区改革：行政区

- 行政区・隣保の機能・ミッションの再定義
- 行政区・隣保における慣例（役・行事）の見直し
- 行政区・隣保の再編　など

住民はここに注目

豊岡の未来を紡ぐ：地域コミュニティの課題と「これから」へのヒント

豊岡市で開催された地域づくり懇談会における、区長や住民による意見交換の記録です。高齢化や担い手不足といった深刻な現状（悩み）を共有しつつ、行事の精査や「兼業区長」が可能な体制づくりなど、時代に合わせた地域運営のあり方を模索しています。

地域が直面している「本音」の課題



区長・役員のなり手不足と過度な負担

75歳まで働く時代になり、「兼業区長」の負担感が限界に達している。

「例年通り」という慣例の壁

肥大化した組織や、暑さ・寒さで実施困難な時間の行事が負担となっている。



若者世代との意識のギャップ

生活に困っていない若年層にとって、地域の活動は「自分ごと」になりにくい。

持続可能な地域に向けた「変革」のヒント



行事の精査と組織の「スリム化」

「なぜやるのか」を問い直し、不要な行事の削減や組織縮小を断行する。

「子育て」を軸にした自分ごと化

子供に関わる取り組みにすることで、若い世代が主体的に動くきっかけを作る。



働きながら関われる体制の構築

公平な役員選出ルールの作成や、副区長の負担軽減など仕組みを整える。

Gemini Notebook

兆し①：義務から「楽しさ」へのパラダイムシフト



掛け算のアプローチ

「日役がたいへんだからやるのではなく、
食事とからめながらやると楽しめる」

（住民F）

引き算のリアリズム

「予算がない集落は、見栄を張らず
必要な金額だけを集金する」

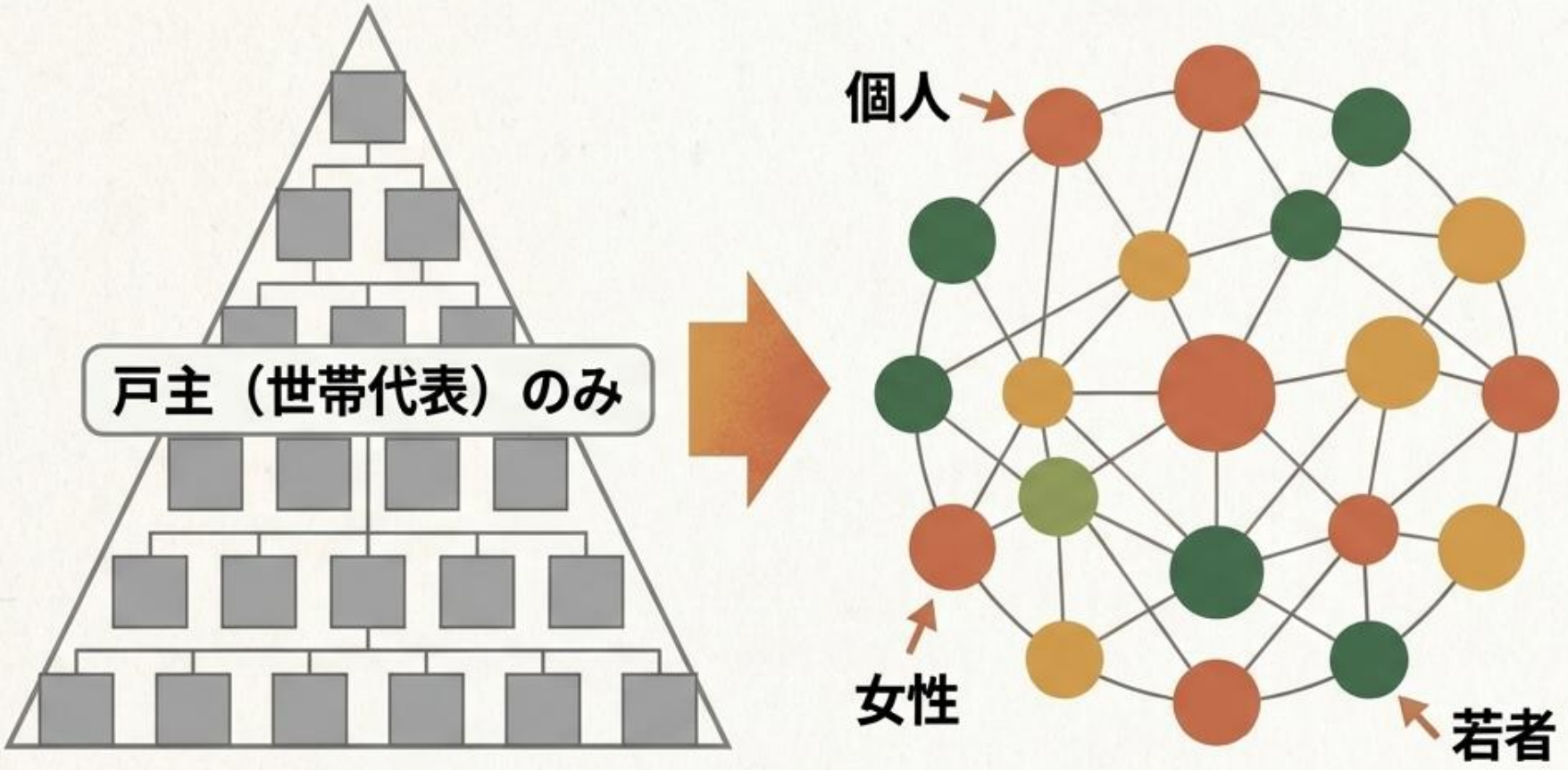
（住民H）

苦しい作業をどう分担するかという「足し算・引き算」の議論から、作業の性質自体を変える「掛け算」のアプローチへ。

Gemini Notebook

兆し②：参加資格の抜本的なアップデート

世帯資格への資側



Uターン9年目の改革劇（住民L）

打破した前例

「世帯代表」のみの参加条件を廃止し、「誰でも参加できる（個人）」ルールへ。

選出方法の変更

隣保長を区全体の選出から変更。

確かな成果

今年度から新たに女性2名が隣保長に就任！

ルールを変えれば、埋もれていた担い手は必ず発掘できます。

Gemini Notebook

女性の参画がコミュニティの「空気」を変える





現場のリアル

- 「男性は建前や前例踏襲があり、どうしても固い」
- 「男性よりも女性の方が協力的である」

住民Ｌの視点

「各区には必ず『秘められた女性』がいるはずです。女性が参加すれば、コミュニティの雰囲気が劇的に変わります。」

女性の登用は単なる平等政策ではなく、前例踏襲の空気を打ち破るための最も有効な「実利的な戦略」です。

Gemini Notebook

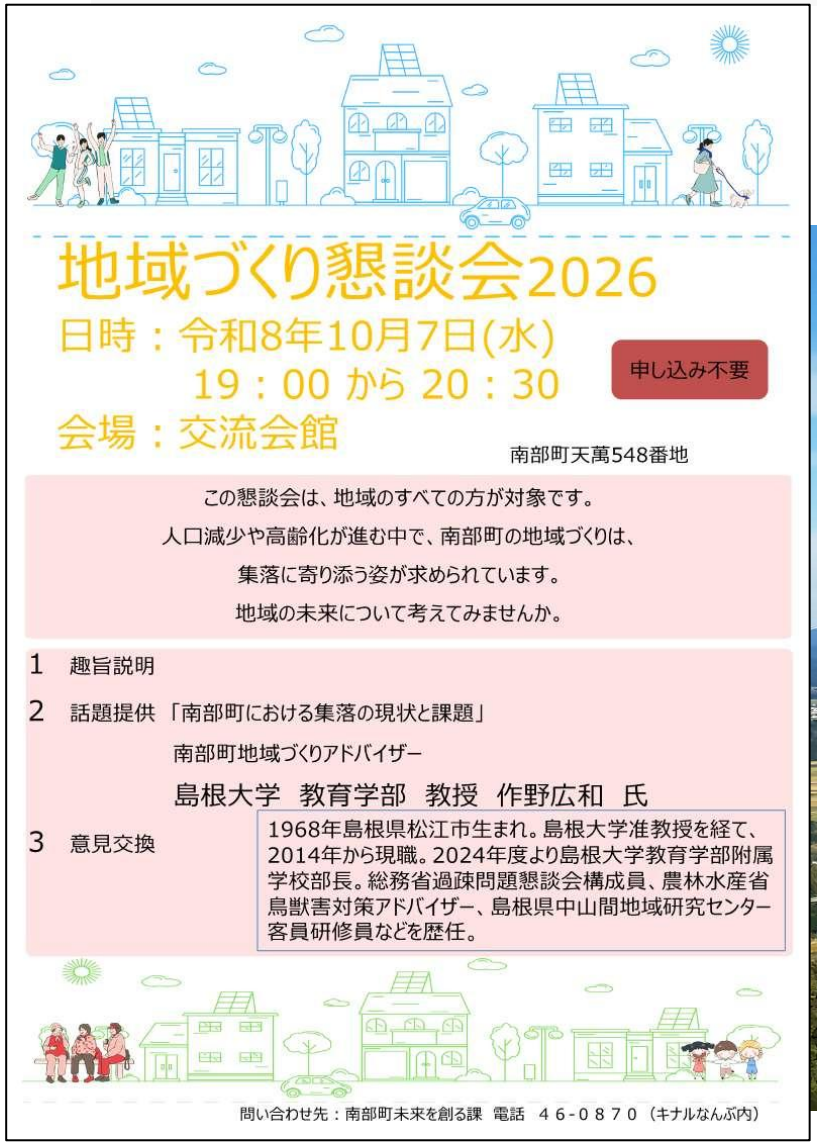
あなたの地域はどちらですか？（パラダイム比較）

	前例踏襲モデル	縮充モデル
参加の要件	戸主・男性中心	個人・女性・若者の包摂（誰でも参加）
活動の基準	前例通りの全件実行（義務）	予算と余力に応じた選択と集中
動機づけ	負担・自己犠牲	楽しさ・食事・交流の付加価値
意思決定	建前と固さ	実用性と柔軟な対話

Gemini Notebook

Ⅳ　鳥取県南部町における「地域のあり方」改革

鳥取県南部町：地域づくり懇談会



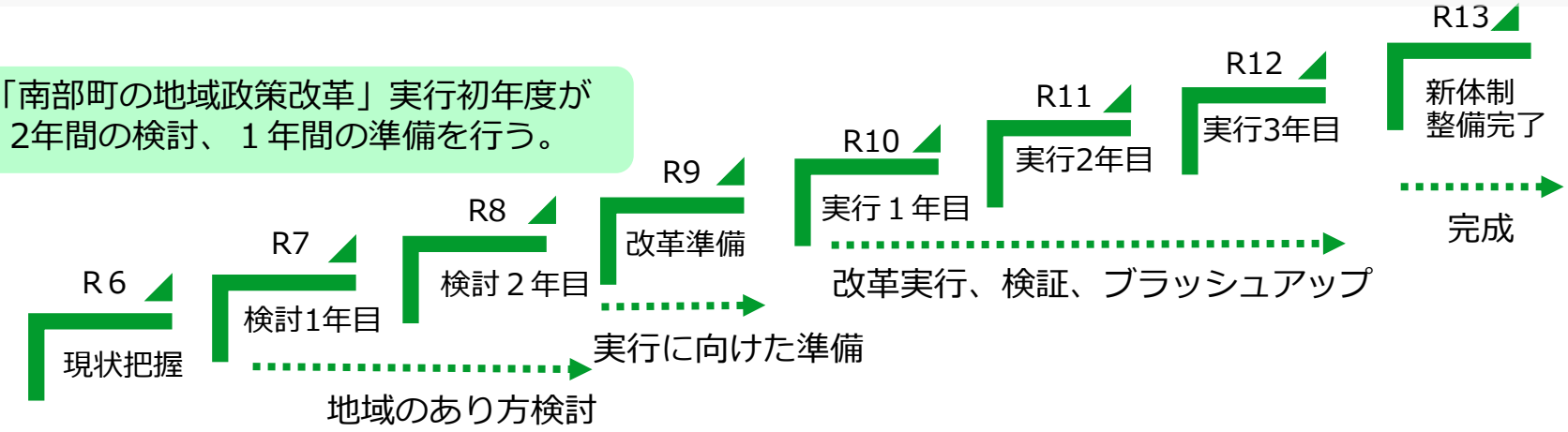






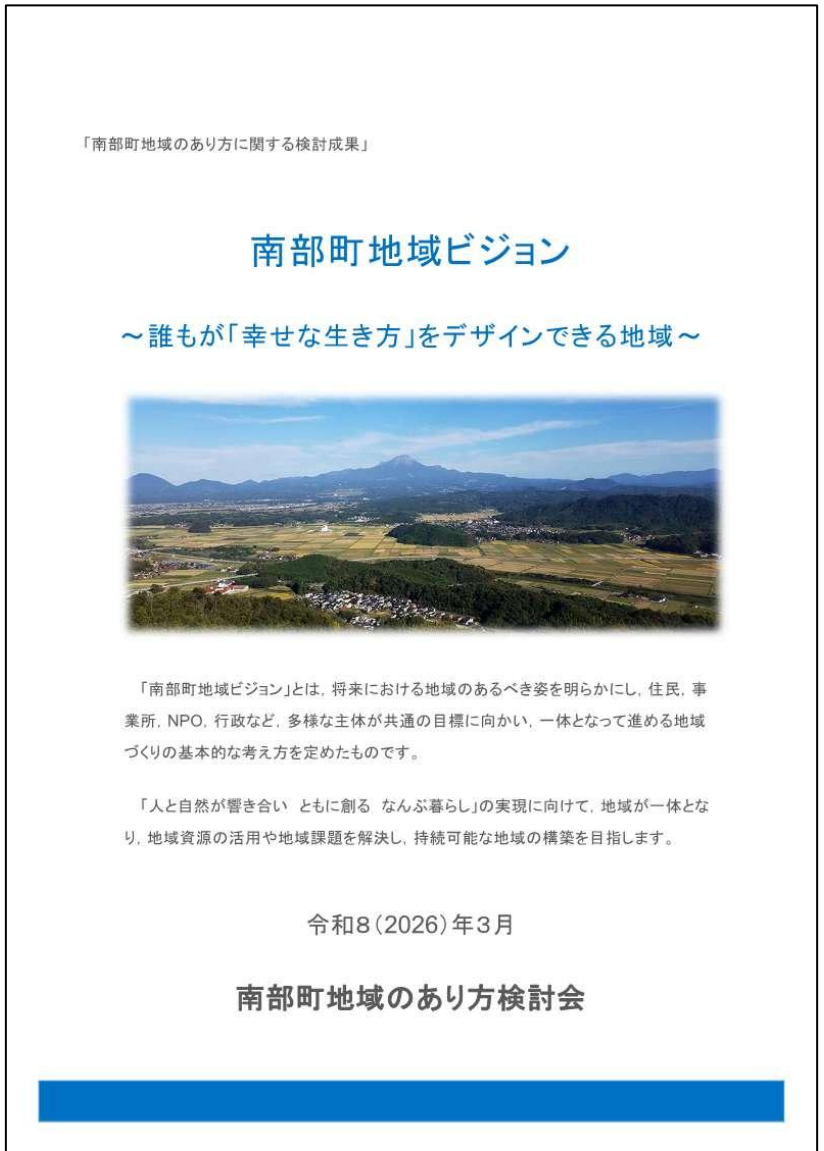
鳥取県南部町：「地域のあり方検討委員会」

令和10年度には「南部町の地域政策改革」実行初年度が迎えられるよう、2年間の検討、１年間の準備を行う。



	取組内容		各年度の取組
2031(R13)年度	新体制整備完了 まち全体が新しい地域のしくみで動き出す	完成	✓行政組織による地域政策のあり方の大胆な見直し ✓地域振興協議会のあり方検討 ✓集落(自治会)のあり方検討と行政との関係を見直し
2030(R12)年度	実行3年目【2地区程度】	実行	
2029(R11)年度	実行2年目【3地区程度】	実行	
2028(R10)年度	実行1年目【2地区程度】	実行	
2027(R9)年度	地域のあり方改革準備 地域戦略会議(有識者会議)	あり方検討	
2026(R8)年度	地域のあり方検討	あり方検討	
2025(R7)年度	地域のあり方検討準備、検討開始	あり方検討	
2024(R6)年度	現状把握(共同研究による実態調査)	あり方検討	

2025年度　コミュニティビジョン・・・・・住民以外の人も含めて地域を守る



「南部町地域のあり方に関する検討成果」

南部町地域ビジョン

～誰もが「幸せな生き方」をデザインできる地域～

「南部町地域ビジョン」とは，将来における地域のあるべき姿を明らかにし，住民，事業所，NPO，行政など，多様な主体が共通の目標に向かい，一体となって進める地域づくりの基本的な考え方を定めたものです。

「人と自然が響き合い　ともに創る　なんぶ暮らし」の実現に向けて，地域が一体となり，地域資源の活用や地域課題を解決し，持続可能な地域の構築を目指します。

令和8（2026）年3月

南部町地域のあり方検討会

(1)人づくり

子ども・若者を中心に据えた子育てしやすく学び続けられる地域

コミュニティ・スクール，まち未来科，ミカエルセミナー，生涯活躍のまちづくりなど

(2)地域づくり

コミュニケーションの深化による誰もが情報を共有しあえる地域

地域振興協議会，NPO法人なんぶ里山デザイン機構，JOCA南部，SANチャンネル，高校生サークル，新☆青年団など

(3)関係づくり

多様な主体の参画により農業生産が継続し里地里山が保全された地域

重要里地里山，農業（稲作，果樹など），生物多様性，伝統行事・文化など

(4)健康づくり

地域ぐるみで住民の健康を維持し，誰もが安心安全に暮らせる地域

スポnetなんぶ，西伯病院，伯耆の国，社会福祉協議会，地域包括支援センター
いくらの郷など

改革の方向性：行政によるガイドラインを提示

階層レベル	対応項目	対応内容	時期
南部町	①人口政策 ②教育政策	・「量」から「質」を求める定住対策 ・地域人材の育成	R9（2027）年度
校区（西伯エリア・会見エリア）	①コミュニティスクールの再検討 ②スクールコミュニティの構築	・コミュニティスクール（学校運営協議会）活動の見直し ・高校生サークル・新青年団による地域活動への参画	R11（2029）年度より順次
地区（地域振興協議会）	①地域振興協議会機能の再定義 ②多様な人材の登用 ③地区レベルの地域活動	・地域課題解決・地域資源活用 ・「この指とまれ」で集まる人材による組織 ・「楽しみながら地域を維持」する組織に改革 ・外出し組織（法人等）の設立＝「集落営農の地域づくり版」※既存組織でもOK	R10（2028）年度より順次
集落（自治会）	①集落機能の再定義 ②むらの減築 役の見直し 区長の職務 ③農地の維持	・世帯の維持 ・必要最低限の集落機能 ・農地の維持 ・空き家の活用 ・「おてつ旅」の活用	R11（2029）年度より順次

「むらの減築」：中間支援者とともに少しずつ改革

【支援者向け】　**京都府「むらの減築」**

「むらの減築」ワークショップ運営マニュアル

令和5年3月　Ver.3.0

京都府　農林水産部　農村振興課








軽減・見直しの考え方（例）

今のうちから「見直したいこと」「話し合い、変えていくこと」

可否は今後の役場や区の役員会での協議や合意形成が必要ですが…

例①「役」の共同化

- 他の集落で共同で役を担う（２集落で１人など）
- その際、負担増加の可能性があることに留意（回る範囲が増える等）し、共同にした方が効率的かどうかも踏まえる。

例②「役」の活動内容そのものの見直し

- 共同作業の見直しと同じように、活動を組み合わせる、方法を変えるなどで負担を減らす（会議の回数を減らす、資料配布を減らす等）

例③「役」がなくても目的達成できる方法に替える

- 特定の「役」の人でなくてもできることを、住民が少しずつ分担する（福祉委員の見守り：毎朝各戸玄関に目印に掲出→ご近所が声かけ）

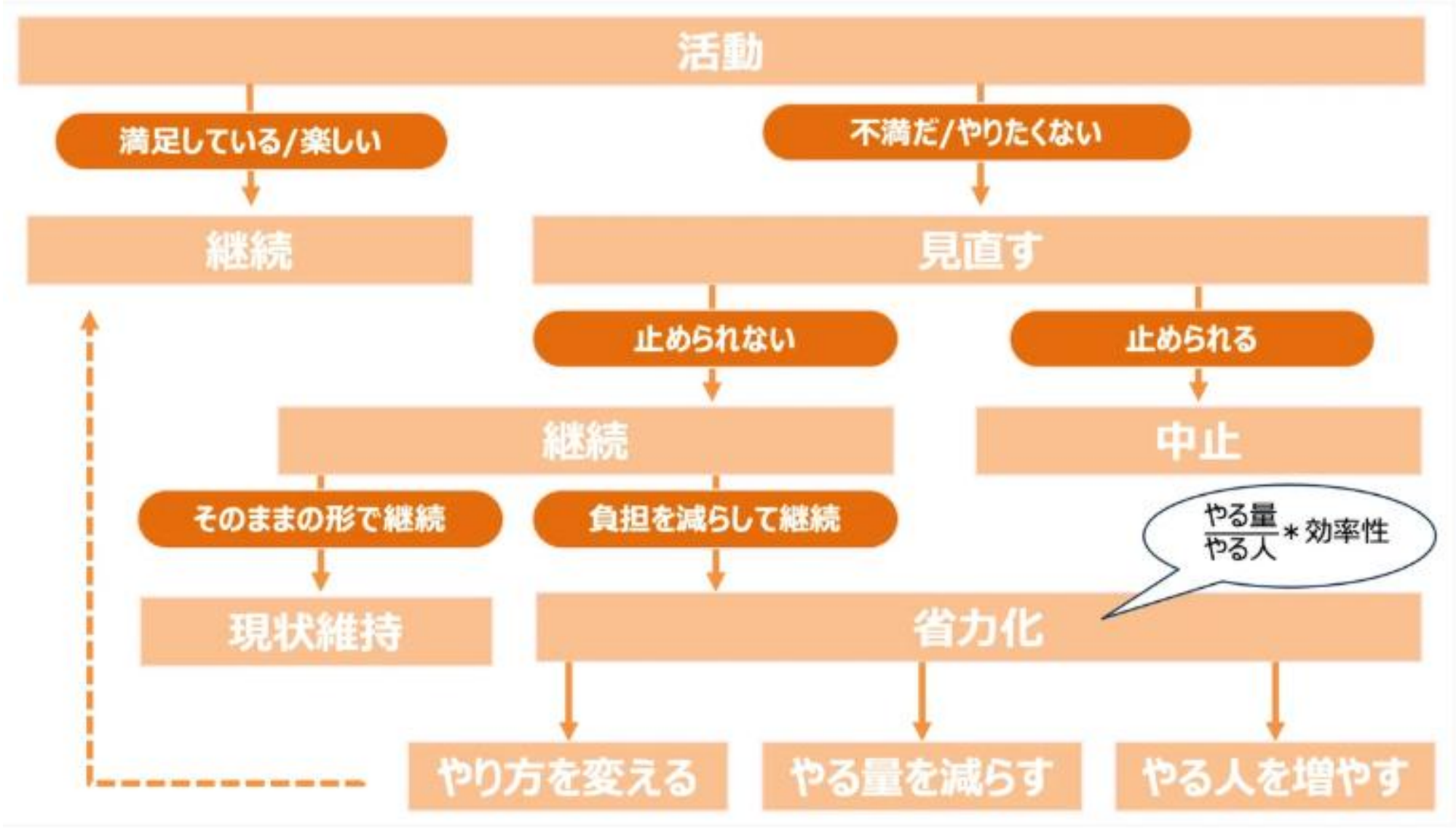
例④　区に必要ない「役」はやめる

- すでにほとんど活動がない役は、他の役にまとめる
- 行政からの依頼の場合、行政で統合・見直しを行う

19

（京都府資料より転載）

「むらの減築」　：まずは地域の現状を見つめる作業



鳥取県南部町坂根区の地域運営見直し

1　経緯

・副区長の任期：令和８年３月31日に満了
・次期、副区長の人選が難航
・初寄合（令和８年３月開催）で区長により現状報告
・検討会の立ち上げについて提案あり　⇒了承
　※区長、副区長の任期：２年
　　区長と副区長の任期を１年ずらし集落運営
　　副区長は、前年度に多面的機能支払団体
　　（坂根活動組織）の会長
　　坂根活動組織の会長は
　　坂根農事実行組合の組合長



２　見直し案

○意図：現在の仕事の棚卸　⇒　再編成
　　区長の仕事の分散化
○きっかけ：役目に入っていない人の存在
　　（見えない不公平感）
○考察
・自分たち（の課題）ことは、自分たちで決めている
　→住民自治の原点

〈役目型〉

区長
↓
副区長
↓
・各種委員（行政関係、地域関係）
・各種組織（農業、神社）

〈グループ運営型〉

区長
↓
○運営ワーキンググループ
○会計、データ処理グループ
○研修グループ
○△△グループ

鳥取県南部町坂根区の地域運営見直し：全世帯が１役以上を担う

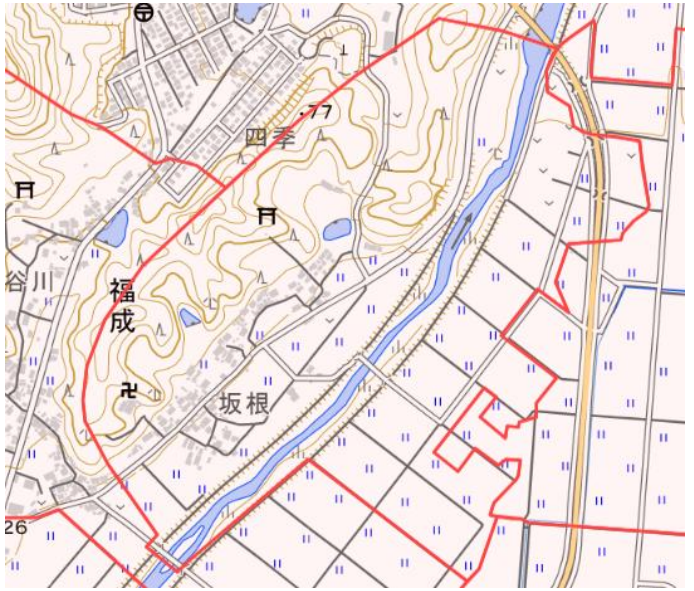
キャッチフレーズ：オンリーワンのむらづくり

- 区長
  - 役場などとの連
  - 回覧
- 統括G
  - 事業計画策定及び運営
    - 記録
    - 区会の議事進行
    - 行事の計画
    - 役員の選出
    - 回覧
    - 区の行事（役目、寄合等）
    - 取り組む事項の提案（緊急のこと、将来のこと）
  - 会計・データベース
    - 集金
    - 予算書、決算書の作成
    - 通帳の管理
    - 区会での報告
    - 坂根区の核WGのデータベースの「サポート」
  - 公民館の維持・管理
    - ゴミ置き場
    - 公園の管理（草、遊具な
    - 掃除計画
    - 備品管理・チェック
    - エアコン工事・メンテ
    - 中長期的な計画（修繕費の積立とか）

- 天津地域振興協議会役員
- 地域福祉委員
- いきいきサロン
- 100歳体操
- 班長
- 防災
- 人材育成（次期役員の育成）

- 運動会
- あまつ祭り
- 敬老会
- 世代間交流
- とんどさん
- 宅神敬祭

- 除雪
- 育成会

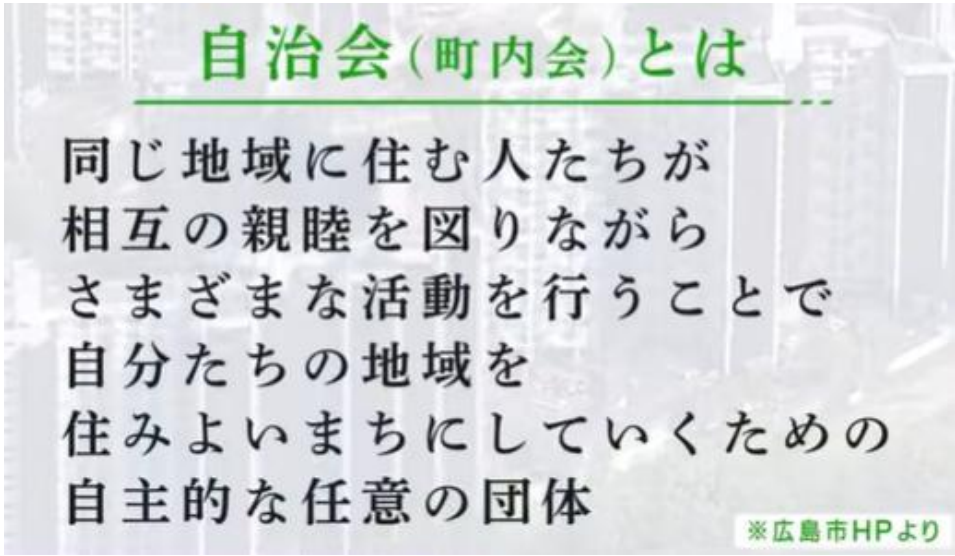


Ⅴ　おわりに

広島市基町アパート６コア自治会長：ものすごく参考になる



【基町アパート】29歳自治会長が「変わる基町」でめざす街の
https://www.youtube.com/watch?v=JncZgZHw6D4



板井三那子さん
2019年から基町高層アパートに住み始め、2022年より自治会長を務める。現在、広島市立大学大学院の博士後期課程に在籍しながらアーティストとして活動。人の記憶をテーマに、自治会長経験などを活かした作品制作や地域のアートプロジェクトなどに取り組んでいる。

但東町資母地区西野々集落：12世帯　人口28人



「不便だと思ったことは
　一度もありません」
「みんなが力を合わせて
　できることは，する。
　できないことは，縮小する。
　ただ，それだけです」

